群馬県立女子大学群馬学センター 第45回群馬学連続シンポジウム

上野介源頼信とその時代

―「亡弊史観」を見直す ―

シリーズ・時代の画期を問い直すII

藤原道長・頼通の時代！

軍事貴族・源頼信の足跡！

「亡弊国」と呼ばれた群馬！

「沈黙の11世紀」の扉がいま開く！

第一部

◎ 講演 ＜13:10～14:50＞

摂関政治期の上野国
上武大学　教授　**中村　光一**

上野国交替実録帳に探る律令政治の亡弊事情
群馬県文化財保護審議会　専門委員　**前澤　和之**

上野国と摂関家領荘園
共愛学園前橋国際大学　教授　**野口　華世**

源頼信の武威と坂東武者
國學院大學栃木短期大学　教授　**菱沼　一憲**

第二部

◎ パネルディスカッション ＜15:05～16:00＞

「群馬県地域史における
古代・中世移行期研究のこれから」

パネリスト　**中村　光一**　**前澤　和之**　**野口　華世**　**菱沼　一憲**

コーディネーター　群馬県立女子大学　教授　**簗瀬　大輔**

2024.6.22（土）

13：00～16：00

参加費　500円（大学生以下無料）

会　場　群馬県立女子大学　講堂

定　員　先着300名　＊事前申し込みが必要です。

◆･◆ 参加特典 ◆･◆

本シンポジウムの記録集となる『地域学ブックレット　群馬の歴史と文化遺産Vol.15〈シリーズ・時代の画期を問い直すII〉』(2026年度刊行予定)を贈呈します。
＊配布方法は別途ご案内します。

お申し込み・お問い合わせ

群馬県立女子大学事務局連携推進係
〒370-1193
群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1
電話：0270-65-8511（大学代表）
FAX：0270-65-9538
E-mail：gunmagaku-center21@mail.gpwu.ac.jp

〈申し込みフォーム〉

《主 催》群馬県立女子大学

《後 援》玉村町　上毛新聞社　群馬テレビ　FM GUNMA　群馬県地域文化研究協議会　群馬歴史民俗研究会　群馬歴史資料継承ネットワーク〈ぐんま史料ネット〉

群馬県立女子大学群馬学センター 第45回群馬学連続シンポジウム

上野介源頼信とその時代

—「亡弊史観」を見直す —

〈シリーズ・時代の画期を問い直すⅡ〉

源頼信は清和源氏の一流で河内源氏の祖である。子孫には鎌倉将軍家、室町将軍家、新田氏、武田氏など、武家の棟梁や名門と目される家系が輩出する。頼信は西暦1000年をまたぐ数年間、上野国司の筆頭たる上野介の任にあった。しかし、その頃の上野国は著しく荒廃しており、税収が乏しい国のひとつであった。このことから、朝廷からは「亡弊国」、疲弊して統治困難な国と査定された。この時代は摂関政治と国風文化の全盛期であった。これまでこの時代は、無気力と退廃の王朝政治の時代と見なされ、そのことが地方の荒廃と治安の悪化を招き、輝かしい古代律令国家を衰退させることになったと評価されることがあった。その影響で上野国の当該期も「衰退と混乱の時代」として叙述されることが多かった。これを仮に「亡弊史観」としてみよう。

ところが実際にはどうだろう。都では摂関家を頂点とする貴族の家によって国政の分掌・請負システムが導入され、前例と儀礼を重視する安定的・合理的な政治体制が整備されていった。地方でも筆頭国司の責任による任国経営の請負システムが導入され、受領と呼ばれる地方統治の強力な推進力を誕生させている。このように10世紀後半から11世紀前半は古代から中世へのアップデートが確実に進行されつつあり、必ずしも「衰退と混乱の時代」とばかりは言えない。また、都では軍事を所掌する武士の家が誕生し、それが各国の受領や鎮守府将軍を歴任することで、中世武家政権の骨格となる都鄙間ネットワークが形成され出したのもこの時代である。ところが、そのような観点からこの時代の上野国の歴史を読み直そうとしても、文献史料に乏しく、遺跡の検出例も前後の時代に比べて極端に少ないことから、「亡弊」の実態と克服の過程については未解明なことが多く、「沈黙の時代」として傍観するばかりであった。はたして、古代社会は本当に「亡弊」とともに終わり、中世社会は「亡弊」を克服することで誕生したのか。それとも「亡弊」と時代の変化は無関係なのか。

本シンポジウムは、「時代の画期を問い直す」シリーズの第Ⅱ弾として、古代・中世移行期の諸問題を、地域史の視点から捉えようとするものである。バブル景気崩壊後の1990年代から2020年代までの経済マイナス成長期を我々は「失われた30年」と呼ぶことがある。出口の見えない長く暗いトンネルの中で、国民や社会の疲弊や無気力な風潮が指摘されて久しく、あたかも現代的「衰退」史のただ中にあるように見える。このことを地域課題として問題視したとき、その解決のために、かつて「亡弊国」と呼ばれた群馬に生きる我々は、どのような歴史的思考と実践を試みることができるのだろうか。

講師プロフィール

中村　光一　上武大学・教授　なかむら　てるかず／Terukazu Nakamura

1960年　茨城県笠間市生まれ
筑波大学大学院博士課程　歴史・人類学研究科単位取得退学
日本古代史　修士（文学）
土浦市立博物館学芸員を経て、1991年より上武大学に在職。
『訳注日本史料延喜式　中巻』（集英社、2007年）、『同　下巻』（2017年）分担執筆、「江戸時代における「延喜式」研究の一様相」（『国立歴史民俗博物館研究報告』218号、2019年）、「「雷鳴陣」再考」（『国立歴史民俗博物館研究報告』244号、2024年）
群馬県地域文化研究協議会副会長、社会文化史学会理事、伊勢崎市史編さん専門委員

前澤　和之　群馬県文化財保護審議会・専門委員　まえざわ　かずゆき／Kazuyuki Maezawa

1946年　群馬県館林市生まれ
関西学院大学大学院文学研究科修士課程修了
日本古代史・博物館学　修士（文学）
群馬県教育委員会事務局文化財保護課、群馬県立歴史博物館、横浜市歴史博物館、館林市史編さんセンター。
著書に『古代東国の石碑』（山川出版社、2008年）、『上野国交替実録帳と古代社会』（同成社、2021年）、『上野国交替実録帳を読む － 千年前の県政白書 －』（みやま文庫、2022年）、編著に『史跡上野国分寺跡発掘調査報告書』（群馬県教育委員会、1989年）など。
伊勢崎市史編さん専門委員長、（前橋市）上野国府等調査委員会委員、（館林市）向井千秋記念子ども科学館運営協議会委員、（公財）日本博物館協会棚橋賞博物館活動奨励賞選考委員、岡山大学文学部非常勤講師など。

野口　華世　共愛学園前橋国際大学・教授　のぐち　はなよ／Hanayo Noguchi

1972年　東京都杉並区生まれ
東京都立大学大学院博士課程単位取得退学
日本中世史　博士（史学）
お茶の水女子大学附属高等学校教諭、東京大学史料編纂所特任研究員などを経て、2012年より共愛学園前橋国際大学に在職。
共編著に、『鎌倉北条氏の女性ネットワーク』（小径社、2023年）、『『吾妻鏡』でたどる北条義時の生涯』（同、2021年）、『増補改訂新版日本中世史入門―論文を書こう―』（勉誠出版、2021年）、共著に『紫式部を創った王朝の人たち―家族、主・同僚、ライバル―』（明石書店、2023年）、論文に「中世天皇家からみる新田荘の成立」（『群馬文化』334号、2018年）など。
前橋市文化財調査委員、伊勢崎市史編さん専門委員、群馬歴史資料継承ネットワーク〈ぐんま史料ネット〉副代表など。

菱沼　一憲　國學院大學栃木短期大学・教授　ひしぬま　かずのり／Kazunori Hishinuma

1966年　福島県福島市生まれ
國學院大學大学院文学研究科修士課程修了
日本中世史　博士（歴史学）
財団法人前田育徳会文庫員、国立歴史民俗博物館科研研究員を経て、2015年より國學院大學栃木短期大学に在職。
著書に『源頼朝』（戎光祥出版、2018年）、『中世地域社会と将軍権力』（汲古書院、2011年）、『源義経の合戦と戦略』（角川書店、2005年）、共編著に『源範頼』（戎光祥出版、2015年）など。
小山市文化財保護審議委員、伊勢崎市史編さん専門委員など。

簗瀬　大輔　群馬県立女子大学・教授　やなせ　だいすけ／Daisuke　Yanase

1965年　群馬県伊勢崎市生まれ
國學院大學大学院文学研究科博士課程後期修了
日本中世史　博士（歴史学）
群馬県立板倉高等学校教諭、群馬県教育委員会文化財保護課、群馬県立歴史博物館学芸係長を経て、2018年より群馬県立女子大学に在職。
著書に『小田原北条氏と越後上杉氏』（吉川弘文館、2022年）、『関東平野の中世』（高志書院、2015年）、『上野の戦国地侍』（みやま文庫、2012年）、共編著に『中世の北関東と京都』（高志書院、2020年）、『北関東の戦国時代』（高志書院、2015年）、共著に『戦国人―上州の150傑―』（上毛新聞社、2021年）など。
群馬県文化財保護審議会専門委員、館林市史編さん専門委員、伊勢崎市史編さん専門委員、群馬歴史資料継承ネットワーク〈ぐんま史料ネット〉代表。

参加申し込み方法（事前予約が必要です）

定員 300名

次のいずれかの方法で、2024（令和6）年6月20日（木）までにお申し込みください。

① インターネット〈推奨〉

大学ホームページまたは右記二次元コードから参加申し込みフォームにアクセスし、氏名・住所・メールアドレス等を入力して参加者登録を行ってください。

② メール〈推奨〉

「第45回群馬学連続シンポジウムに参加希望」、「氏名」、「住所」、「電話番号」を明記して以下のアドレスまで送信してください。

E-mail：gunmagaku-center21@mail.gpwu.ac.jp
（群馬県立女子大学事務局連携推進係あて）

③ 電話

「第45回群馬学連続シンポジウムに参加希望」、「氏名」、「住所」、「電話番号」をお伝えください。

◎受付時間／平日9:00から17:00まで
◎電話番号／0270-65-8511（大学代表）

◆ 参加特典 ◆

本シンポジウムの記録集となる『地域学ブックレット群馬の歴史と文化遺産Vol.15〈シリーズ・時代の画期を問い直すⅡ〉』（2026年度刊行予定）を贈呈します。
＊配布方法は別途ご案内します。

書籍展示販売

会場にて、出演者著書、関連書籍の展示販売を行います。
協力：戸田書店榛名店

＼イベントメールリストに登録を！／

インターネット、またはメールでお申し込みをされると、群馬学センターイベントメールリストに登録され、群馬県立女子大学や群馬学センター、または後援・協賛団体等が主催する講演会・シンポジウムなどの情報をいち早く受け取ることができます。この機会にぜひ、群馬学センターイベントメールリストにご登録ください。

お問い合わせ

群馬県立女子大学事務局連携推進係
〒370-1193　群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1
・TEL／0270-65-8511　・FAX／0270-65-9538
・E-mail／gunmagaku-center21@mail.gpwu.ac.jp　・WEB ⇨